

高田 時めぐり

TAKADA Model course

城下町高田さんぽ

四〇〇年の歴史が語りかけるまち

所要時間 + 4時間

※所要時間は移動時間と見学時間を含めた目安です。

高田城下町さんぽモデルコース

- P** 町家交流館 高田小町 1分 ↓ 2分
- Q** 高田世界館 1分 ↓ 3分
- R** 雁木のまち並み 10分 ↓ 25分
- S** 高田城三重櫓 2分 ↓ 8分
- T** 榊神社 5分 ↓ 8分
- U** 旧師団長官舎 5分 ↓ 10分
- V** 高橋孫左衛門商店 5分 ↓ 10分

※P.10の地図参照



400年の歴史 城下町高田

高田城物語

高田城は、慶長19年(1614)に、加賀の前田氏、米沢の上杉氏など13の大名による天下普請で築城され、徳川家康の六男・松平忠輝公の義父伊達政宗が普請総裁として指揮をとり、大坂の陣を目前にして、わずか4カ月たらずで竣工させています。

松平忠輝公は文禄元年(1592)に生まれ、8歳のとき伊達政宗の娘五郎八姫と婚約。慶長15年(1610)、堀氏に替わって越後福島城に入りましたが、福島城を廃して高田城を築きました。しかし、元和2年(1616)改易となりました。その後、高田城には御三家に次ぐ家格をもつ松平光長が入り、高田藩最大の賑わいを迎えることになりました。

現在は新潟県の指定史跡となっているほか、平成29年(2017)4月6日には(公財)日本城郭協会により「続日本百名城」により「続日本百名城」に選ばれました。



町家交流館 高田小町 P

明治時代に建築された町家「旧小妻屋」を再生・活用した交流施設です。館内には町家の特徴である吹き抜けや土蔵、案内所やギャラリーなどがあります。

9:00~22:00 休 第4月曜(祝日の場合は翌日)・12月29日~1月3日
025-526-8103
高田駅から徒歩10分



高田世界館 Q

明治44年(1911)に芝居小屋「高田座」として建てられたもので、現役で営業上映している映画館の建物としては日本最古級とされています。(国登録有形文化財)

9:00~20:00頃
※見学は上映の合間に入場可
※火曜 見学科500円(ガイド本付き)
025-520-7626
高田駅から徒歩10分



雁木のまち並み R

「この下に高田あり」といわれるほど高田の豪雪は昔から有名で、雁木は雪国の知恵が形となって現代まで受け継がれてきたものです。この辺りは、職人町の風情が残っており、石畳や格子戸のある雁木のまち並みが訪れる人の旅情を誘います。

025-526-6903(文化振興課)
高田駅から徒歩10分



高田城三重櫓 S

高田城には天守閣や石垣は築かれず、越後最大の雄藩にふさわしい三重櫓がシンボルでした。平成5年(1993)絵図や古文書をもとに復元されました。

9:00~17:00
休 月曜日・休日の翌日・12月29日~1月3日
※冬期休館有
一般310円、小・中・高校生160円
025-526-5915
高田駅前案内所からバス9分・「高田城址公園」下車徒歩5分



茶糸素懸威黒塗補五枚胴具足 鉢巻型兜付(市指定文化財)



榊神社 T

徳川四天王といわれた藩祖・榊原康政を祭神とする神社で、境内には雙輪館があり、榊原氏代々の遺品が展示されています。

025-523-5276
高田駅前案内所からバス6分・「大手町十字路口」下車徒歩1分



旧師団長官舎(市指定文化財) U

明治43年(1910)、旧陸軍第13師団長であった長岡外史中將によって建てられた官舎を移築・復元したもので、市内に残る数少ない明治期の洋風建築物です。

9:00~16:30 休 月曜日・休日の翌日・12月29日~1月3日 ※冬期休館有
入館料無料 025-526-5903
高田駅から徒歩15分
※令和2年度は改修工事により休館



高橋孫左衛門商店 V

江戸時代の戯作家・十返舎一九の「金の草鞋」にも紹介された、約390年続く給屋です。主屋は国の登録有形文化財です。

8:30~19:00 休 水曜日(8月除く)
025-524-1188
高田駅前案内所からバス9分・「南新町入口」下車徒歩3分

寺町寺社 散歩

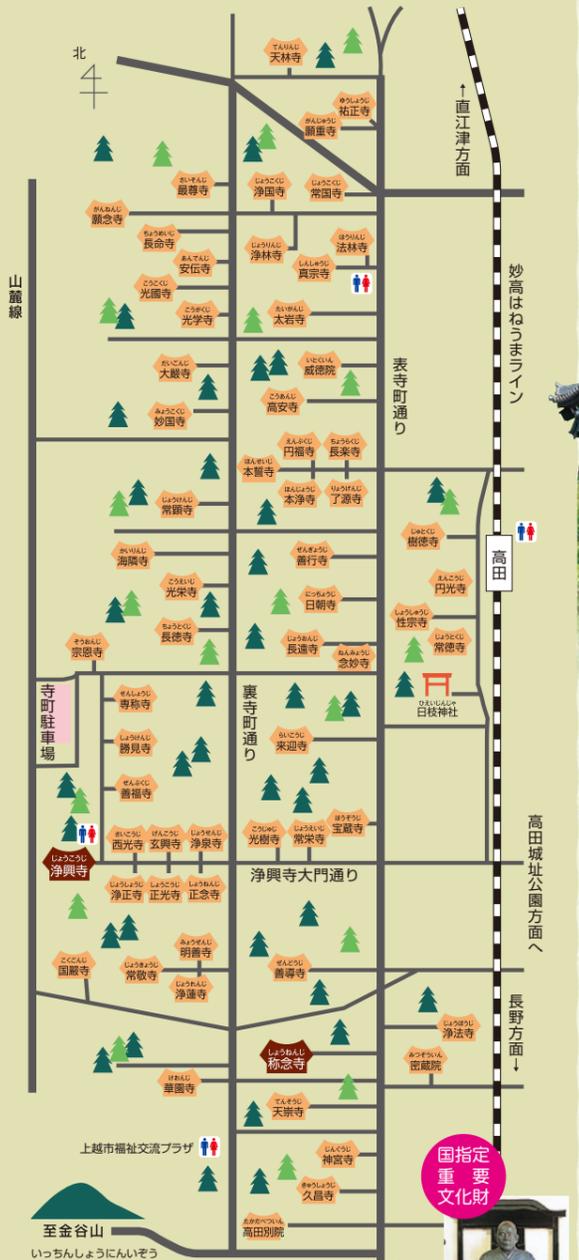
今でも60を超える寺社が建ち並ぶ、全国でも珍しい一画です。高田城築城に伴い春日山城下や福島城下、府中(直江津地区)から転移してきたもので、築城以前の上越の古い歴史を知ることができる寺院もたくさんあります。



浄興寺本廟(市指定文化財)

親聖聖人の頂骨が納められていて、唐門の彫刻は明治時代の名工篠田宗吉作で、目を見張るものがあります。

025-524-5970
高田駅から徒歩7分



一鎮上人倚像

上越地区唯一の時宗の寺、称念寺所有の時宗第六代一鎮上人の倚像(イスに腰かけた像)で、たっぷりとした量感に富む南北朝時代の作です。

025-523-4589 高田駅から徒歩10分

時めぐり コラム 松平忠輝公と五郎八姫

松平忠輝公は文禄元年(1592)、徳川家康の六男として生まれ、8歳で伊達政宗の娘・五郎八姫と婚約しますが、在城わずか2年で改易となり、元和2年(1616)伊勢朝熊へ配流の身となります。25歳のときでありました。彼の進取の気概が災いしたと言われています。

13歳で忠輝公に嫁いだ五郎八姫は結婚わずか10年、高田入城2年で、夫・忠輝公の改易によって一人伊達家の江戸屋敷へ移り、元和6年(1620)に仙台城内の西館に移り住みます。天麟院と称し、寛政で不運な生涯を閉じたと言われています。

忠輝公は朝熊に2年、飛騨高山に8年という流謫の日々を送っていましたが、寛永3年(1626)、三代将軍家光は、叔父・忠輝公を諏訪高島城主頼水に預け丁寧に扱うよう命じ、以来、天和3年(1683)、92歳で世を去るまで高島城南の丸を配所としました。時はすでに五代将軍綱吉の代でした。

五郎八姫と婚約しますが、在城わずか2年で改易の理由によって一人伊達家の文元年(1661)、66歳で世を去るまで高島城南の丸を配所としました。時はすでに五代将軍綱吉の代でした。



忠輝公は多芸多才の人であったといわれ、墓所である長野県諏訪市の貞松院月仙寺には彼の人物を偲ばせる遺品が数多く残っています。



正保高田城絵図